



# 西浮通信

令和4年1月31日  
NO. 377  
東京都北区立西浮間小学校  
校長 小島 みつる



## 「犯人さがし」より大切なこと

副校長 唐澤 伸郎

今年度もあと2ヶ月となりました。オミクロン株の感染急拡大の昨今ですが、本校ではこれまで2年近く続くコロナ禍で、保護者の皆様の様々なご理解ご協力のおかげで、感染対策を講じできる限り通常に近い形で教育活動に取り組んでまいりました。この場を借りて改めて感謝申し上げます。そして、昨年末にwebにておこなった教育活動についての保護者アンケートでは85%以上のご家庭に回答をいただきました。重ねてお礼申し上げます。回答の集計といただいたご意見に対する学校の見解を学校評議員会で行う評価委員会で検討し、現在進めている次年度計画にしっかりと反映させていきます。保護者の皆様にはまとめたものを改めてお示しいたします。

生活指導に関するご意見も幾つかいただきました。残念なことではありますが、学校では生活指導上の課題として、持ち物がなくなる、違う場所で見つかる等という事案が発生します。このような場合、まずみんなで探した上で、①学年（学級）全体に事実を伝え、やってしまった人、知っている人はいないかを問い質す。②（出てこない場合は）この事実を自分ごととして捉えさせ、クラスのあり方の問題として考えさせる。③許されないことであることを言って聞かせ、同じことを起こさないためにどうしていくかを考える等指導を行います。保護者への連絡も含めできる限り迅速に行うことを心がけています。

もちろん自分から正直に過ちを認め、しっかりと自分の成長に繋げることができる場合も多くありますが、手がかりが見つからない場合もあります。その場合学校では、まず「ぜったいにやってはいけないことであることを理解させる。」そして「やられた人の気持ち、やられた人の家族の気持ちを考える。」「やってしまった人の気持ちを心配する。」（何かのサインである。）等の指導により子供たち一人一人を信じ、これからの成長に繋がられるようにしています。

コロナ感染症は誰がいつ感染してもおかしくない状況です。こんな時代だからこそ人の気持ちを考え、思いやりの気持ちをもって行動すること、助け合いながら生きて行くことの大切さを改めて考えさせたいと感じます。自分のちょっとした言動が差別や偏見となっていないか、人を傷つけることに繋がっていないか考えられるようにさせたいと思います。

先日、ある児童が登校後なかなか教室に行けずにいる場面を見かけました。そこへ同じクラスの児童が数名来て気遣って言葉をかけましたが、やはりその子の気持ちを考え一度教室に戻って少一人にしてあげることにしたのです。暫くするとその児童は自分から教室に行き、皆は笑顔で迎え入れたのでした。たわいもないことかもしれませんが、私は一連の言動から子供たちの美しい心遣いがたくさん見られとても嬉しい気持ちになりました。今後も子供を信じて、純粋な優しい気持ちを伸ばして行きたいと思います。